

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2008-180212

(P2008-180212A)

(43) 公開日 平成20年8月7日(2008.8.7)

(51) Int.Cl.

F03H 5/00 (2006.01)

F I

F03H 5/00

テーマコード (参考)

C

審査請求 有 請求項の数 3 書面 公開請求 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2007-298644 (P2007-298644)

(22) 出願日 平成19年10月22日 (2007.10.22)

(71) 出願人 598006989

頼富 哲男

香川県高松市香西東町105-15

(72) 発明者 頼富 哲男

香川県高松市香西東町105番地15

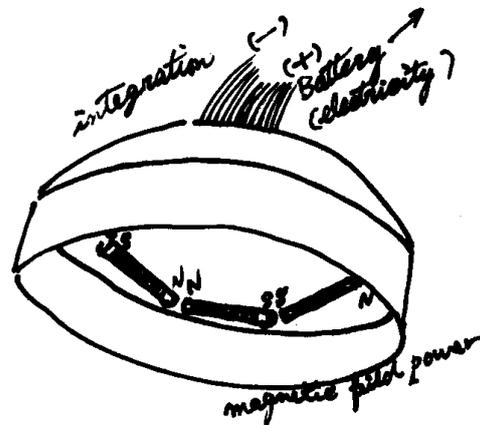
(54) 【発明の名称】 ハンス・コーラーの原理に関する反重力エンジン『テツオネーター』について

(57) 【要約】

【課題】 飛行機やヘリコプタ - 以外の空を飛ぶ乗り物の原動力を提供する。

【解決手段】 N極とN極、S極とS極が合うように六角形に電磁石を並べて、電磁石に電圧を加え、その六角形の電磁石の装置の周囲を囲み積分する。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

電磁石を使用し、六角形に電磁石を並べ、そうすることにより電磁石をN極とN極、S極とS極とに並べられる。

【請求項 2】

磁石の性質を利用して、この浮上装置（反重力エンジン）『テツオネ - タ - 』を発明した。

【請求項 3】

六角形に並べた電磁石の周囲を壁で囲み、積分する。（積分しないと何にの作用も起こらない。）

10

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、反重力に関する装置『テツオネ - タ - 』による物体浮上の原理（電磁石の作用による）である。

【背景技術】**【0002】**

従来は、反重力の装置はプロペラの回りを積分し、下方に推進させる方法であった。

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】**

20

【0003】

プロペラによる物体浮上の方法はプロペラの回転が停止すると、落下してしまう。その頻度を最小にするのが、電磁石による物体浮上の方法である。

【課題を解決するための手段】**【0004】**

N極とN極、S極とS極が合うように六角形に電磁石を並べて、電磁石のコイルが切れないうちに電磁石に電圧を加える。そのとき、六角形の電磁石の周りを積分しておく。すると、N極とN極、S極S極が互いに反発しあう。その反動で、物体を浮上させる。この装置を『テツオネ - タ - 』という。反重力エンジンという事でハンス・コ - ラ - の原理という言葉を使用させてもらった。

30

【発明の効果】**【0005】**

プロペラ浮上の場合、電動モ - タ - やガソリンエンジンの喧しい音が発生した。しかし、電磁石の浮上の場合は、そのような騒音もなく、静かに浮上する。墜落の心配もプロペラの浮上に比べ、安全である。この様に反重力エンジン『テツオネ - タ - 』の利点は多い。この反重力エンジンの完成であらゆる分野で応用が、可能である。（注・積分しなければ、何の作用も起きない。）

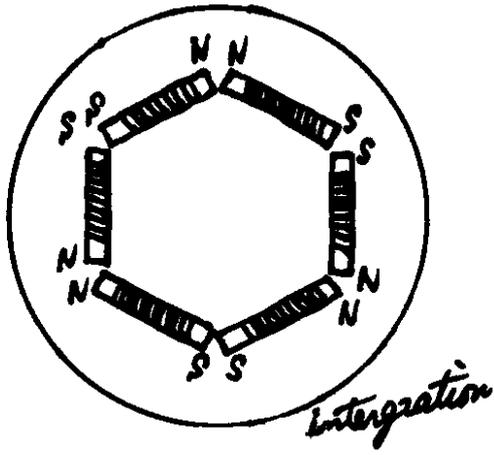
【図面の簡単な説明】**【0006】**

【図 1】本発明の正面図である。

40

【図 2】本発明の斜視図である。

【 図 1 】



【 図 2 】

